

## 第6回北海道地方会

代表世話人：旭川赤十字病院院長 後藤 聡



会場風景

平成18年11月25日に旭川赤十字病院院長後藤聡を代表世話人として日本医療マネジメント学会第6回北海道地方会が旭川大雪クリスタルホールにおいて開催されました。「医療安全とDPC」をテーマに演題を募集したところ予想をはるかに上回る36題の演題が集まりました。参加者も11月の雪のちらつく時期での開催ではありましたが、約160名と多くの方々の御参加を頂きました。北海道地方会発足当時はクリティカルパスを主体とした学会で発表内容もほとんどがクリティカルパスに関するものでしたが、今回はテーマが「医療安全とDPC」であったこともあり、医療安全の演題が半数以上を占めました。特別講演も倉敷中央病院医療安全担当の米井昭智先生に“先進病院での医療安全への取り組み”と題して発表して頂き、大いに刺激をうけました。また、ランチョンセミナーには徳島県病院事業管理者の塩谷泰一先生をお迎えして“ファイン・チームワークで支える病院医療”と題する講演を頂き、病院として何か行動する際には全職員のチームワークが大切であると痛感させられました。次回は本年10月13日に札幌で開催予定です。

(文責：旭川赤十字病院 副院長 牧野憲一)

## 第6回東北地方会・第1回秋田地方会

代表世話人：秋田厚生連秋田組合総合病院院長 坂本哲也



会場風景

第6回東北地方会とは第1回秋田地方会を兼ね、「日々前進」をメインテーマに平成18年11月25日(土)秋田市拠点センター「アルヴェ」で開催されました。クリティカルパス・医療安全・チーム医療・DPC等に関する一般演題が合計36題発表され、11題のクリティカルパス展示がありました。また、「地域連携とクリティカルパスの現状」をテーマにワークショップが行われ、昼には青森市民病院外科部長 橋爪正先生の「エビデンスを重視した効果あるSSI予防策の実施」と題したランチョンセミナーが行われました。その後東北大学病院 庄子由美看護師長から「専任リスクマネージャー経験者からみた現場の安全管理」と題する特別講演があり、引き続きシンポジウム「専任リスクマネージャーからみた医療安全の現状と課題」があり活発な討論が行われました。最後に国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 野村一俊先生から「地域連携クリティカルパスと今後の医療連携」と題する特別講演があり閉会となりました。↗

↘ 今回秋田県では初めての開催で一抹の不安もありましたが、約480名の皆様に参加していただき、熱気あふれる活発な討論が行われ、大成功のうちに会を終えることができたのは秋田組合総合病院スタッフの皆様のご尽力によるものであり、紙面を借りて御礼申し上げます。

平成19年度の第7回東北地方会は岩手県立中央病院院長 佐々木崇代表世話人のもと盛岡市で、第2回秋田地方会は11月に秋田市で開催する予定です。

(文責：横手市立大森病院 院長 小野剛)

## 第2回愛知県地方会

会長：トヨタ記念病院病院長 稲垣春夫

世話人：名古屋大学医学部保健学科教授 山内豊明



会場風景

第2回日本医療マネジメント学会愛知県地方会が平成18年11月25日(土)、名古屋市内にある東別院ホールで開催されました。当日は、319名、74施設(昨年より10施設増)の参加がありました。

特別講演として病院が取り組む課題のひとつであるリスクマネジメントについて、多摩大学医療リスクマネジメントセンター教授の真野俊樹先生をお招きし、「リスクマネジメントの考え方ーリスクコミュニケーションの視点ー」のご講演をしていただきました。また、一般演題として、各医療機関から「医療の質の改善」「クリティカルパス」「医療安全管理」「地域医療連携」「チーム医療」について、16題の発表があり、活発な質疑が行われるなど好評のうちに滞りなく閉会することができました。

## 第2回和歌山地方会

代表世話人：橋本市民病院院長 青木洋三



会場風景

和歌山地方会の第2回学術集会は平成19年1月27日(土)に橋本市民病院 青木洋三院長の主催のもとに和歌山市で開催されました。学術集会メインテーマである「関わる皆が安心・満足する医療を目指して」と題してのシンポジウムのほか、一般口演、ポスター、クリティカルパス展示の計75題のご発表を頂き、活発な討論のもと盛会裏に終わることができました。

特別講演では、和歌山県福祉保健部技監 大森先生による「和歌山県医療の将来を考える」、並びに和歌山県立医科大学先端医学研究所 入江先生による「医療情報システムは誰を幸せにするの